創業90年ののれん染め工房を訪問

のれん染めのこと、教えてください！

お仕事拝見 のれん染めができるまで

1 型おこし

さまざまな図案や文字の型紙を組み合わせてデザインします。お客さんの要望によっては、新たに紙を切って型紙を作ることも。中には創業当時から残っている型紙もあります。

2 糊つけ

布に型紙を載せ、出刃というヘラを使って、もち米で作られた糊を置きます。塗った箇所がわかるよう、糊には水性の色が付いています。塗り終えたら慎重に型紙をはがし、乾かします。

3 引き染め

糊の裏に色がにじまないように張木という道具で生地をつるし、染料を付けた刷毛を左右に往復させて染めます。「緊張感と、色が染まる楽しさを感じる作業です」と琢満さん。

伊藤 穣さん

みんなの作業を参考にしながら挑戦しました

4 色止め

染料はそのままだと色落ちしてしまうので、色を定着させるためにフィキサーという強アルカリ性の液体を塗ります。こちらも引き染めと同じく、張木でつるして作業を行います。

奥村 拓都さん

どうしたらうまくいくか考えながらやりました

5 水元

水洗いをして、フィキサー、糊、余分な染料を落とします。作業は、冬場の寒い時期でも手洗いで行います。染料によって洗剤の配分を変えるほか、80℃ほどのお湯を使うことも。

6 干す

シワにならないよう張木を使って干します。季節や天候によって湿度が変わるため、かかる時間はまちまちです。乾いたあと、縫製などの仕上げをして完成です。

こんな道具を使っています！

刷毛や出刃は、図案によって大きさの違うものを使い分けます。糊つけに使う筒や、ピンと生地を張るための伸子などもあります。

荒川区に伝わる伝統工芸技術の継承者を育成する「荒川の匠育成事業」を活用し、三代目である父・片山昭さんから技を受け継いでのれん染めの道へ。「引き染めの工程は一発勝負。やり直しのきかない作業です」と四代目。

【本日の師匠】

片山琢満さんとは？

集中力や几帳面さが求められる仕事です

片山のれん染工所で主に手がける「引き染め」は、布の上に家紋などの模様や店名などの文字の型紙を載せ、その上に糊を置く工程から始まります。糊の上から色を載せると、糊が染料をはじき、その部分は染まらないのが特徴です。

染法1 引き染めに挑戦！

片山のれん染工所で主に行っているのが、上の段でも紹介した「引き染め」という染め方です。ムラにならないよう、一定のリズムで刷毛を引くことが求められます。

慣れるには相当な期間がかかりそうです！

渡部 朔太郎さん

渡部さんは「手で押さえないとうまくできない…」と試行錯誤しながら仕上げました。

「想像以上に難しい！」と話していた伊藤さん。作業を見慣れてきたこともあって、だんだんコツをつかめたようです。

糊の裏側はご覧のとおり。糊つけの作業がうまくできていたので、糊の裏に染料がにじまず、きれいに染めることができました！

染法2 藍染めに挑戦！

染めたときと出来上がりの色が大きく変わる藍染め。糊つけをした後、藍染め液に浸して干すと、青い色に変わります。身近なところでは、ジーンズなどに使われる染め方です。

繁張する大前さん。引き染めと違って刷毛を使わず、藍染め液が入った容器の中に布を入れて浸す「浸染」という方法で染めます。

藍染め液に15秒ほど浸して奥村さんが引き上げます。この段階では布はまだ緑がかった淡い色をしています。

引き上げたあとに数分干すと、深い青色に変わりました！　空気中の酸素に触れると酸化し、色が変化するという仕組みです。

藍の色が変わる仕組みに興味を持ちました

大前 美咲さん

《荒川ふるさと文化館イベント》
あらかわ伝統工芸ギャラリー展示
「あらかわの伝統工芸―金工・諸工芸―」

令和7年3月12日(水)まで開催
※休館日：月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)、第2木曜日、12月29日～1月4日
●開館時間：午前9時～午後5時
●会場：荒川ふるさと文化館1階あらかわ伝統工芸ギャラリー

のれん染め○×クイズ

Q1 型紙は一度使ったら捨てて、毎回新しいものを使います。

Q2 糊つけの工程で使う糊は、もち米でできています。

Q3 引き染めは、薄い色よりも濃い色を出すときのほうが難しいです。

答えは4面にあります